

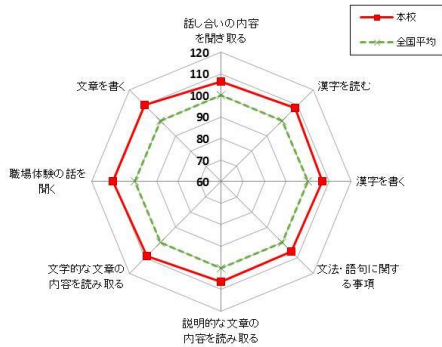
令和4年度釧路市標準学力検査の結果分析について〔釧路市立幣舞中学校〕

過日、令和4年12月に実施しました標準学力検査の結果について、釧路市教育委員会で検査対象となっています1学年と2学年の国語と数学、生活行動調査について提示させていただきましたが、釧路市教育委員会の検査対象外となっています3学年5教科、1、2学年の社会、理科、英語の標準学力検査の概要と今後の取組の方向性について改めて提示させていただきます。国語、数学同様、今回の結果から本校生徒の学力の傾向についてより詳細に把握するとともに、毎日の授業改善を通じて、教職員一丸となって学力向上に努めてまいります。今後も、幣舞中生たちの生きる力を育む教育活動を展開いたしますのでご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

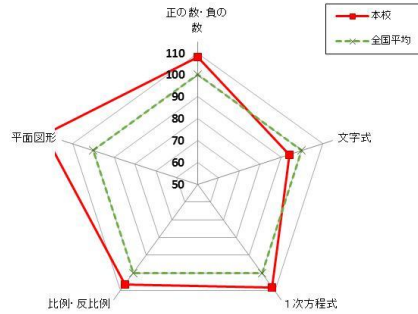
1年生

レーダーチャートは、各教科の問題内容の全国平均値を100とした場合の本校及び全国平均の状況を示したものです。

国語



数学



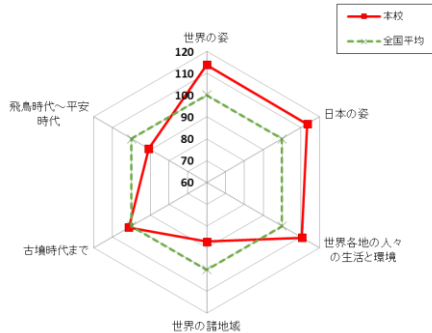
成果○と課題●

- 基礎・活用ともに全国平均正答率より4.6ポイント上回っています。領域別では我が国の言語文化に関する事項が全国平均正答率より9ポイント、情報の扱いに関する事項が8.6ポイント高かったです。解答形式では記述問題が全国より7.1ポイント上回りました。
- 最終問題を全て無解答にしている生徒が18.6%います。2段落構成、意見と理由を書くこと、時間内になど条件を満たした短作文づくりが課題です。

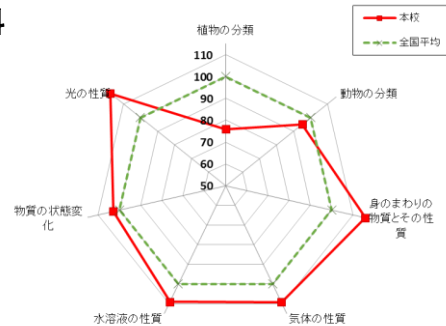
成果○と課題●

- すべての領域で全国平均を上回りました。知識・技能においては全国平均と目標値を上回り、正負の計算や一次方程式ではある程度の計算技能の定着が見られました。
- 反比例のグラフをかくことや、方程式や不等式の立式に課題が見られました。無解答率も他の問題と比べると高かったです。すべての観点で全国平均を上回りましたが、「主体的に学習に向かう態度」が低いです。文字式の説明する問題で無解答率が高いです。計算技能の力には二極化が見られました。具体的な手立てを講じる必要があります。

社会



理科



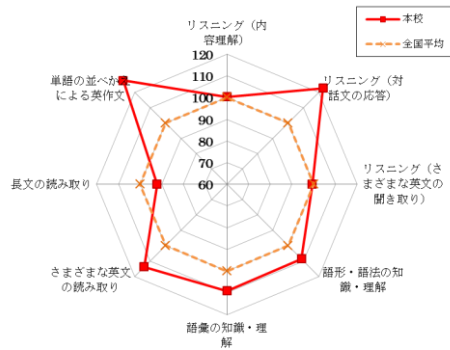
成果○と課題●

- 観点「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」や「活用」の問題において全国平均を8ポイント上回りました。
- 地理では全国を3ポイント上回っており、資料の読み取りも比較的できています。誤答が多かった問題についても、授業で習った最新の知識を活用したため勘違いしたものもあり、ある意味、授業で活用した知識が定着していたと考えられます。
- ▲歴史では資料や地図、地理では「日本の領域」における基礎的な設問での正答率が低いです。意図的に振り返りの課題を設定する必要があります。家庭学習や宿題で、基礎的な知識の定着を図り、その知識を活用する時間を授業の中で設定するようにしていきます。

成果○と課題●

- 全国平均値を観点別、基礎・活用別の全項目で上回っていました。また、基礎・活用別では活用の正答率が高く、観点別では「思考・判断・表現」の正答率も全国平均を上回っていました。活用の場面を積極的に導入した普段の取組の成果としています。
- ▲問題別において生物領域の「植物の分類」と「動物の分類」において極端な数値の落ち込みが見られました。これらの単元について共通した要因は、基本的な知識についての設問で正答率が低いということが挙げられます。また、該当の単元は活用の場面を十分に授業に導入することができませんでした。指導計画の見直しを図りながら、活用の時間を十分に確保していきます。

英語



成果○と課題●

- 「リスニング」「語彙の知識・理解」、「単語の並べかえによる英作文」の問題において、授業の取り組みの成果が見られました。
- 「長文の読み取り」、「場面に応じて書く英作文」や「3文以上の英作文」の問題において、課題が見られました。授業では生徒が話す時間をたっぷり取るということを意識して取り組んだ分、長文を読んだり、英作文をするための時間を設定できなかったことが調査の結果にも課題として表れています。単元の中で読む活動や書く活動にじっくりと取り組める時間も確保していきます。

◆1年生 5教科全体の傾向

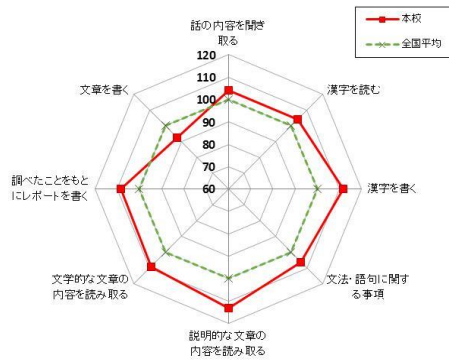
実施した全ての教科において全国平均を上回っています。また、小学校6年生時に実施した国語、数学の2教科については、全国平均との差においては国語ではほぼ横ばい、数学では3Pほど数値が上がっていました。一方で、どの教科についても「授業改善」の成果が見られます。基礎基本の知識・技能の定着、単元間の格差、主体的に学習に向かう姿勢、文章を読み取る力、時間をかけ、粘り強く問題に取り組むこと、文章を作る力など課題も見られます。各教科で挙げられていますように、引き続き授業改善を推進していきます。

◆1年生 生活行動・学習調査の結果から

- 平日の家庭学習の時間では、1時間30分以上している生徒の割合が全国平均を上回っており、全体的にも家庭学習の時間は全国平均を上回っています。
- 『自分には良い所がある』と答えた生徒の割合が全国平均を上回っています。
- 『自分は友達や先生、家の人から認められている』と答えた生徒の割合がそれぞれ、全国平均を上回っています。
- 平日の家庭学習の時間では、「30分くらい」と回答した生徒の割合が全国平均を上回っています。
- 『自分のことが好きである』と答えた生徒の割合が若干、全国平均を下回っています。
- 『将来の夢や目標を持っていない』と答えた生徒の割合が全国平均を上回っています。

2年生 国語

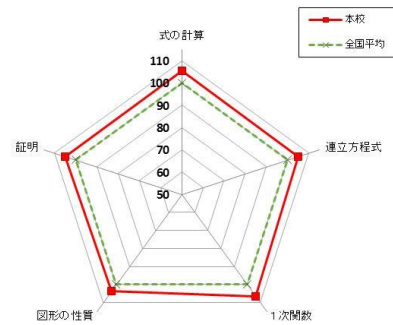
レーダーチャートは、各教科の問題内容の全国平均値を100とした場合の本校及び全国平均の状況を示したものです。



成果○と課題●

- 基礎は4.2ポイント、活用は全国平均正答率より3ポイント上回っています。領域別では言葉の特徴や使い方に関する事項が全国平均正答率より6.6ポイント、情報の扱い方に関する事項が5.6ポイント高かったです。また、観点別では知識・技能が全国より5.6ポイント上回っていました。
- 領域別では書くことが全国の平均正答率より0.6ポイント低かったです。観点別では主体的に学習に取り組む態度が0.4ポイント、解答形式では記述問題が1ポイント低かったです。結果、主体的に取り組む態度の観点も記述問題で見ようになっているため、全国平均を下回りました。文章を読み、条件を理解し、自分の考えを伝わりやすく書く授業の改善が必要です。

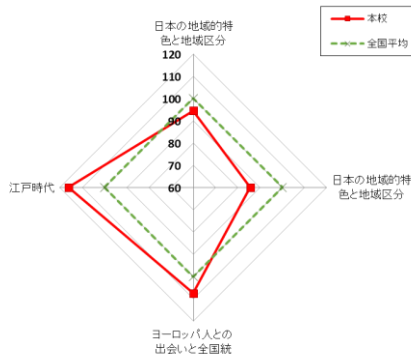
数学



成果○と課題●

- すべての領域（数と式、図形、関数）で全国平均を上回っています。前年度で課題が見られた関数で出題された問題のうち、グラフの読み取り問題以外は全国平均を上回っており、昨年度からの課題に対する手立てが有効に作用したと考えています。
- 経年変化では全領域において昨年度より数値が下降しました。全国平均は越えていますが、早急に手立てを講じる必要性があります。特に「～を説明する」や「～を表現する」という問題において、無解答率が60%以上となっています。特に「考えを書いて表現する」ということに課題が見られます。基本的な計算問題で無解答率が比較的高いので、計算技能で定着が不十分であったと判断しています。

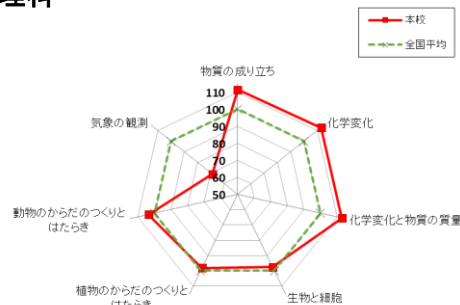
社会



成果○と課題●

- ICTを併用しながら、自分の考えや意見をまとめる活動の積極的な導入を図ったことで、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点や「活用」の問題の正答率が全国を上回りました。
- 歴史は全国の前年正答率を5ポイント上回り、知識・技能、思考・判断・表現の力がの力が付いている。
- ▲地理的分野の基本的な重要語句の正答率が低い傾向が見られました。
- ▲複数の資料やグラフをじっくり読み取り、設問の矛盾を見つけるような問題や、グラフに計算を必要とする問題の誤答率が若干高いです。資料の読み取りに時間をかける課題を増やしていきます。

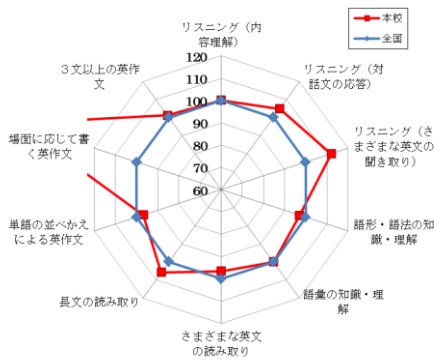
理科



成果○と課題●

- 粒子の領域で全国平均を大きく上回っていました。主に化学変化に関する問題においてその傾向が顕著です。また、観点別では「思考・判断・表現」の問題で全国平均を大きく上回っていました。
- ▲平均正答率が経年変化で昨年を大きく下回りました。また、地球領域の気象の観測の問題において、特に基本的な知識・技能の正答率が全国比で半分だったことで全体の基礎、知識の数値を下げる要因となっています。生物領域においても、全国比を上回っているものの、同様の傾向が認められており、その原因については、基本的な知識・技能の定着を図る活用の場面の保障が弱かったことが挙げられます。授業で得た知識・技能の定着を授業の中で図るために活用の場面を多く導入していきます。

英語



成果○と課題●

- 「リスニング」の問題において、成果が見られました。
- 「語彙の知識・理解」と「さまざまな英文の読み取り」の問題において、成果が見られました。
- 「単語の並べかえによる英作文」と「場面に応じて書く英作文」の問題において、課題が見られました。帯活動として、3文以上のつながりのある英作文をする活動を取り入れたり、タブレットドリルを活用するなど、話すことから書くことに重点を置いた取組方法の工夫を行います。

◆2年生 5教科全体の傾向

1年生同様、実施した全ての教科において全国平均を上回っています。一方で、英語を除く4教科は全国平均との差が昨年に比べて縮まっています。1年生同様、基礎基本の知識・技能の定着、単元間の格差、文章を読み取る力、文を使って表現する力、時間をかけ、粘り強く問題に取り組むこと、などに課題が見られます。各教科で挙げられていますように、引き続き授業改善を推進していきます。

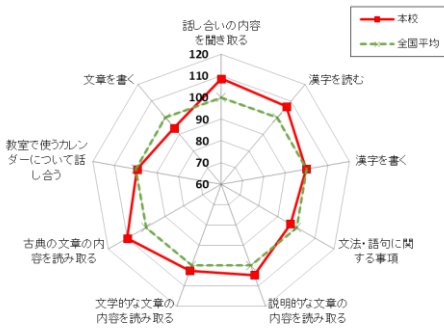
2年生 生活行動・学習調査の結果から

- 1年生同様、平日の家庭学習の時間では、1時間30分以上している生徒の割合が全国平均を上回っており、全体的にも家庭学習の時間は全国平均を上回っています。
- 1年生同様、自分には良い所があると答えた生徒の割合が全国平均を上回っています。
- 1年生同様、自分は友達や先生、家の人から認められていると答えた生徒の割合がそれぞれ、全国平均を上回っています。
- 将来の夢や目標を持っていると答えた生徒の割合が全国平均を上回っています。
- 平日の家庭学習の時間では、30分くらいの生徒の割合が全国平均を上回っています。
- 自分のことが好きであると答えた生徒の割合が、全国平均を下回っています。

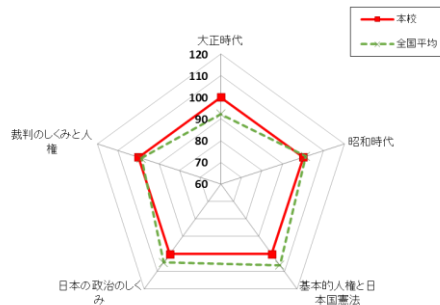
3年生

レーダーチャートは、各教科の問題内容の全国平均値を100とした場合の本校及び全国平均の状況を示したものです。

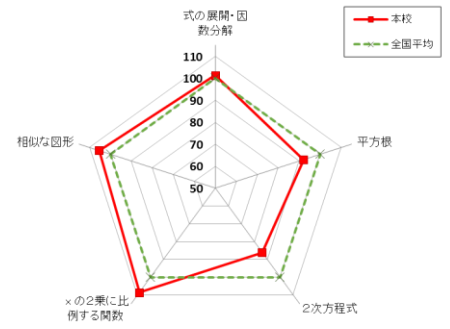
国語



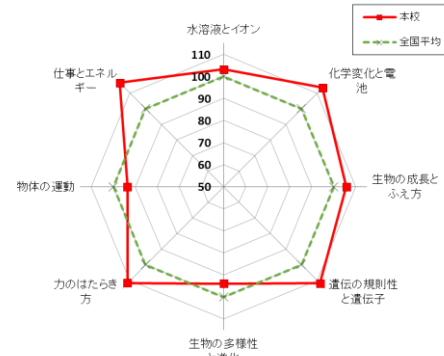
社会



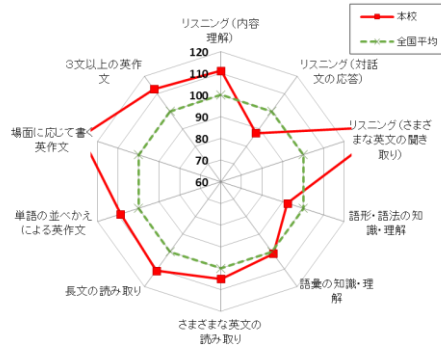
数学



理科



英語



全教科、全国平均を上回っています。特に英語については、昨年度比で大幅に数値をあげました。基礎・活用別では、社会、数学、理科、英語において共に全国平均を上回っています。観点別「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」においても、これらの教科は共に全国平均を上回っています。国語においては、「文章を書く」問題が全国平均を1P以下ではありますが下回り、その結果、活用、「主体的に学習に取り組む態度」の数値に影響しました（3年生は年度初めに行った全国学力学習状況調査においても、全教科（国語、数学、理科）で全国平均を上回っています）。

※3年生は生活行動・学習調査は実施しておりません。

【今後の本校の取組】

- ◎授業においては、課題となった領域の分析を早急に行い、年度内でその補充を十分に導入していきます。
- ◎全ての教科等を通じて、話し合う場面を適切に位置付け、生徒が資料を活用したり、話の組立てを工夫したりしながら発表・説明する活動を行い、わかりやすく説明する力を育みます。
- ◎生徒がもっと「知りたい」、「学びたい」と思える授業の構築を目指し、問題に対して全員が課題意識を持って取り組むことができるような工夫（問題設定、家庭学習への価値付け、意欲喚起）を全教科で行います。

【家庭にお願いしたいこと】

- ◎家庭学習の時間の目安は「学年＋1時間」となっております。ご家庭においても、毎日、机に向かう習慣づくりをお願いいたします。
- ◎1日のテレビゲームを行う時間や携帯電話、スマートフォンの利用時間や安心安全な利用については、ご家庭においてお子様とルールを共有して下さい。お子様自身が自律的にそのルールを守っていけるよう話し合ってくださいをお願いいたします。